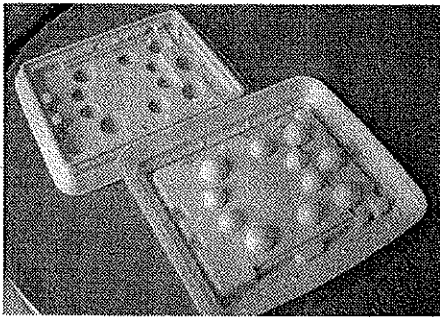


ユニオン産業が梱包材

【川崎】ユニオン産業（川崎市中原区、森川真彦社長、044・755・1107）は、環境に配慮した梱包材「ワンタッチトレイパック」を製作した。富士通の開放特許を基に同社独自の環境樹脂「ユニペレ」を配合して成形した。今秋をめどに発売する計画で、価格は300円、材角2枚1組で500円を予定している。プリント基板、回路ユニットの保管、輸送用や精密機器、ガラス製品、貴金属などの輸送用に販売する。

構造 富士通の開放特許 素材 独自の環境型樹脂



プリント基板など輸送

新製品は、富士通が日米で特許を持つ「包装材の構造」を基に開発した。弾性を持つ合成樹脂

のシートを、外側に向けた高さ、大きさの異なる突起の組み合わせを持つトレイパックに成形。これを上下に用い、相互の凹凸部分ではめ込む構造を持つ包装技術で、ワンタッチで簡単に梱包できる。梱包材は「ワンタッチトレイパック」。麦の皮などを主成分にした素材で作られる。

梱包材を大幅に削減可能で、梱包容積の縮小や梱包作業の効率化が図れる。

ユニオン産業は独自の環境樹脂「ユニペレ」を使用したシートでこれを成形した。ユニペレは麦や竹などを主成分にした素材。今回は麦の皮をパウダー状にしてポリプロピレン（PP）と混合、帯電防止配合材と強抗菌素材も加えた。このシートを約300度Cで真空成形する。重量は2枚で212・5g。

これにより、廃棄の際に焼却してもダイオキシンなど有毒ガスの発生がなく、二酸化炭素の発生量を抑える。6800*の低燃焼カロリーなので焼却炉を傷めないなどの特徴がある。

ユニオン産業は富士通の開放特許を活用するためのライセンス契約を4月28日に結んだ。川崎市の「知的財産交流会」の成果で、今回が8件目。